

平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【福岡県】

糸島市立前原東中学校

1 実践テーマ	【 I II III】
2 実施対象者	糸島市立前原東中学校全校生徒716名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (道徳) ② 行事名 () ③ その他 (生徒会活動) (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	2020年東京オリンピック・パラリンピック開催に向けて ○スポーツの意義や価値について関心を高めるとともに理解できる生徒の育成 ○スポーツに主体的に参画（する・みる・支える・調べる・作る）する生徒の育成 ○他者と協働し主体的に取り組む態度，多様性の尊重，公德生を身に付けた生徒の育成
5 取組内容	○運営委員会での提案 日時：H29年9月25日（月）運営委員会（1校時） 内容：オリンピック・パラリンピック教育実践計画の提案 ○生徒会役員への提案 日時：H29年10月2日（月）放課後 内容：2020年東京オリンピック・パラリンピックへの参画 「都市鉱山からつくるみんなのメダルプロジェクト」説明 ○全校学習会（道徳） 日時：H29年10月16日（月）6校時 場所：体育館 内容：オリンピック・パラリンピックに関する知識 （歴史・競技種目・精神等） 大会を支える仕組み スポーツの価値（努力を尊ぶ態度・フェアプレイ精神等） 選手の体験やエピソード 参加国，地域文化や言語や我が国の伝統や文化 「都市鉱山からつくるみんなのメダルプロジェクト」説明



○「都市鉱山からつくるみんなのメダルプロジェクト」

小型家電の回収

期間：第一次H29年10月17日（火）～11月11日（土）

第二次H29年11月20日（月）～12月20日（水）

回収品目：使えなくなった小型家電

（携帯・ゲーム機・電卓・デジカメ等）

回収方法：生徒会作成の募集要項を全校生徒に配付
前原東中玄関前に回収ボックスを設置
糸島市役所回収（生活課）

○福岡マラソンでのPR活動

日時：H29年11月12日（日）

場所：ゴール地点（志摩中央公園 東中ブース）

参加者：生徒会役員 やるキッズ募集 美術部員 教員数名

内容：「都市鉱山からつくるみんなのメダルプロジェクト」説明
前原東中が取り組んできたボランティア活動の報告と掲示



○現役オリンピック・パラリンピック選手による講演

日時：H29年12月21日（木）14：40～16：10

講演者：女子マラソン（視覚障害） 銀メダリスト

道下美里 選手（三井住友海上火災保険株式会社）

- ①道下選手の紹介
- ②伴奏者と入場
- ③生徒による体験
- ④講演（DVD鑑賞含む）
- ⑤質疑応答
- ⑥写真撮影



○パラリンピック競技によるクラスマッチ

日時：H30年1月26日（金）5・6時間目 体育館

対象：1年生

競技： ボッチャ ゴールボール



	<p>○パラリンピック競技によるクラスマッチ 日時：H30年1月26日（金）5・6時間目 体育館 対象：1年生 競技： ボッチャ ゴールボール</p> 
<p>6 主な成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会主導でメダルプロジェクト等の企画・運営を行ったことで、オリンピック・パラリンピックに主体的に取り組んでいこうとする態度を育成することができた。 ・パラリンピアン道下美里選手を招いて講演会を実施したことで、パラリンピックの意義や価値とともに、パラリンピアンの生き方や考え方に対する理解を深めることができた。 ・パラリンピック種目を導入したクラスマッチを実施したことにより、障がい者スポーツへの理解や、関心を深めるとともに、スポーツを楽しむ心を醸成することができた。 ・複数の取組を意図的・計画的に行い、関連させていくことでそれぞれの取組の内容を充実させることができた。
<p>7実践において工夫した点（事業の特色）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・単発の取組にするのではなく、複数の取組の関連を図った。 ・生徒の主体性、自主性を尊重するように配慮した。 ・これまであった既存の行事等にオリンピック・パラリンピックの要素を取り入れていった。
<p>8主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全校での取組が主となってしまったため、学級単位等での実践について検討していく必要がある。 ・講師を招聘する際の事前打合せを十分に行う。 ・講師を招聘した後の、事後学習の在り方について再考する。
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の取組でオリンピック・パラリンピック教育の価値を実感したので、来年度以降も是非、継続、充実させていきたい。 ・予算関係に課題はあるが、工夫していきたい。